

親鸞さまの

【本文】

往相還相おうそうげんそうの回向えこうに

まうあはぬ身みとなりにせば

流転輪廻るてんりんねはきはもなし

苦海くかいの沈淪ちんりんかがせん

【意記】

阿弥陀様は二つのことを私達にお与えくださった。一つは、極樂に往くき仏と成ること。今一つは、極樂から現世に仏様として還ることです。

もし、このお救いに出あうことが出来なければ

私は成仏することなく、無限に生と死を繰り返して続けたことでしょう。

迷いと苦しみの深海に沈み続ける私を、私自身の力では到底どうすることも出来なかつたのです。阿弥陀様は私の救い主であられます。

【私の味わい】

映画では、現実ではあり得ないような不思議なストーリーがあります。面白可おかしい一方で、考えさせられることもあります。作品名は挙げませんが、印象に残っているのが、何度も同じ日を繰り返すという筋のお話です。朝目覚めるといつも同じ日

同じ会話、同じ出来事、という調子です。話の結末は映画それぞれですが、主人公が悪戦苦闘して、その繰り返しの中で、試行錯誤するという筋は共通しています。全く同じ

事が繰り返されるといふのは、滑稽なようで現実に起きるとさぞ困惑するでしょう。

上記のご和讃で、聖人は、無限に生と死を繰り返して続けた、迷い続けてきた、成仏す

ることが出来ずにと仰っています。命が終わり、生まれ、また終わり、生まれ。

その生まれた時代、縁あつた人、どんな人生を生きたかは勿論違つてしょう。しかし、

そこに共通するのは、成仏することなく迷い続けた結果は同じ、といふことです。

その迷い続けてきた私が、阿弥陀様のおかげによつて今、こんじょう生でめでたく極樂往生

成仏が定まつた。そこには自然と感謝が付属します。ああよかつた。阿弥陀様がおら

れなければ、私をお目当にお慈悲を垂れて下さらなければ、またこれまでと同様に

迷い続けるところだつた。有り難いなとお念仏をお称とえさせていたゞくのです。

お念仏は、感謝から流れ出でるものです。先だつた人も、私も、後に続く人も全て

お引き受け下さつた阿弥陀様のお慈悲を味わう、そんな一年にしたいもので、悠水

報恩寺ホームページ www.houonji.jp